

令和6年度学校評価自己評価【最終】

神杉小学校

学校教育目標 「豊かな人間性と確かな学力をもち、自ら伸びる子どもの育成」

やさしい子

かしこい子

たくましい子

達成度	達成値	評価	A ≥ 100	80 > C ≥ 60
	目標値		100 > B ≥ 80	60 > D

A 適切である
B 概ね適切である
C あまり適切でない
D 適切でない

	中期経営目標【担当部】	具体的な取組・方策	評価指標	評価状況	最終評価 達成状況	改善策	学校関係者評価 (評価) (記述)
知 確かな学力	主体的な学びの創造により学力の向上を図る。	【学びの構えづくり】 ・学習規律、学習の準備を徹底させる。 【学びの基盤づくり】 ・算数の時間や「やるゾウタイム」に繰り返し計算練習やタブレットドリル等を行い、基礎学習を徹底させる。 ・読書タイム、家庭読書を充実させ、読書量を増やす。	①「つけておきたい学習規律、低中高学年のねらいを達成できた」肯定的評価 70%以上にする。 ②三次市学力到達度検査において、全国平均＋7点以上にする。 ③算数科単元末テスト 80 点以上の児童の割合を 70%以上にする。 ④「本を読むのは楽しい」肯定的評価 70%以上にする。	①73/70×100=104 ②7/16×100=44 ③74/70×100=106 ④83/70×100=118 B	①「つけておきたい学習規律、低中高学年のねらいを達成できた」肯定的評価 72.9% ②三次市学力到達度検査において、全国平均＋7点以上 7/16 ③算数科単元末テスト 80 点以上の児童の割合 74.4% ④「本を読むのは楽しい」肯定的評価 82.6%	・「聞く」ことの大切さ、またそのよさを見童が感じ「聞く」ことができる授業、生活作りを行う。学校全体で取り組み、学習に向かう姿勢作りを行う。 ・課題を分析し、補充学習を行う。 ・図書室、移動図書利用を増やし、様々な本にふれ楽しむ機会をもち、読書朝会などで集中して本を読む時間の確保を続ける。	AAB ・小中で教育の組み立てをされていると聞いていたの で、みんなで塩町中学校に行った方がいいと思っていました。子どもの学びの難しさは個性、個人差があることです。みんなで時間をかけて、ゆっくり大きくなれば良いと思います。 ・適切に評価されている。 ・「聞く」ことができる授業づくり、生活づくりの具体策、日々の自己評価の工夫、努力、意識の高まりが必要である。 ・実態に応じた無理のない評価指標の設定と具体的な改善策を明確にして統一した行動ができるとさらに良い。 ・どの学年も真面目に授業を受けていて感心しました。ただ低学年の立ち歩きが少し気になりました。
		・指導者が児童の学びをファシリテートする力の向上を図る。 ・単元のゴールを明確化し、児童がゴールに向けて自分で考え、解決できる授業づくりを行う。 ・自主学習を中心とした家庭学習の充実を図る。	①一人1回算数科の授業提案を行い、研究を深め授業づくりに生かす。 ②家庭学習や自主学習の取組を学期に1回異学年で交流する。 ③「以前に比べて自分の自主学習がかわった」肯定的評価を 80%以上にする。	①6/6×100=100 ②100 ③73/80×100=91 B	①一人1回算数科の授業提案を行い、研究を深め授業づくりに生かした。 ②家庭学習や自主学習の取組を学期に1回異学年で交流した。 ③「以前に比べて自分の自主学習がかわった」肯定的評価 72.5%	・子どもを主語とした授業、児童の学びをファシリテートする授業づくりを続ける。 ・家庭学習、自主学習の取り組み方、内容について指導や交流を行い、児童の力につながる学習になるようにする。 ・取り組み方について全校で可能なものは統一し、学校全体の取組とする。	
徳 豊かな心	規範意識、礼儀正しく節度ある言動、思いやりの心を身につけさせ、望ましい集団作りを進める。	・児童に様々な場面でリーダーを経験させ、リーダーとしての自覚と責任を持たせる。 ・児童会活動、縦割り班活動の充実。	毎学期、振り返りシートにおける、肯定的評価 ①リーダーとしての自覚と責任 (5, 6 年生)75%以上 ②委員会活動 (5,6 年生) 70%以上 ③縦割り班活動 80%以上 にする。	①83/75×100=111 ②93/70×100=133 ③92/80×100=115 A	①リーダーとしての自覚と責任肯定的評価 83.3% ②委員会活動 (5・6 年生) 責任をもって行う 肯定的評価 93.3% ③縦割り班活動 ・他学年に進んで声をかける 肯定的評価 83.3% ・活動は楽しい 肯定的評価 92.3%	・児童会の月目標や通学班の目標を意識できるよう、新役員を中心に掲示や振り返りの場を意図的に設定していく。 ・委員会活動では、新年度に向けて活動内容の精選をし、新六年生を中心に新たな取組を企画・運営できるようにする。 ・委員会活動、縦割り班活動での高学年の評価を日常的に行うことを継続していく。	AAC ・葉ボタンを贈った高齢者を招いて、一緒に過ごす時間を計画していると聞き、また授業参観の時、何をするかみんなでワイワイガヤガヤ楽しそうに決めていました。子どもたちの成長を感じつつ、子どもをきちんと見ていなかった自分を反省し、全面的に協力したいと思います。 ・適切に評価されている。 ・児童の実態がすべてを物語っている。よい方向である。 ・児童が TPO に応じて心豊かに主体的な行動及び自発的で自然な対応ができるような支援と評価が継続して必要である。(対応する人によって態度が変わらないように配慮してほしい) ・一斉下校について、学校で何度も注意されていると聞いていますが、全くよくなりません。家庭で親が子どもに指導する必要があると思います。
		・友だちや上級生、下級生の良いところを認め、励まし合う活動を充実させる。 ・全職員が毅然とした対応を徹底する。	①毎学期、振り返りシートにおける、スマイルカードに関する肯定的評価を 85%以上にする。 ②登校時や来客の方に対し、自分から進んで立ち止まって会釈してあいさつができる児童の割合を 80%以上にする。	①44/85×100=51 ②75/80×100=93 C	①スマイルカード肯定的評価 44.0% (中間評価比 ▲24.4%) ②レベル5のあいさつ肯定的評価 75.0% (中間評価比 ▲11.5%)	・取組が情性にならないように、行事や学級での活動ごとに書く視点を明確にしたり、書かれたカードの掲示を工夫したりして、取組を日常的に意識させる。 ・児童自身に挨拶について考えさせる場を定期的に設定したり相互評価させたりして、レベル5にこだわらず進んで挨拶できるように働きかけていく。	
体 たくましい体	体力の向上と生活習慣の改善を図る。	・体育科の授業や委員会等の取組による意欲的な体力づくりを行う。	・体づくりに関するアンケートの肯定的評価 80%以上にする。	79.3/80×100=99.1 B	アンケートの肯定的評価 79.3%	・健康委員会の企画を中心とした運動朝会等を工夫し、楽しく運動できる機会を設ける。	AAB ・ほぼ毎日、登校の見守りをしています。元気な1年生が3人もいて、通学班を待っている間、道路の周りを駆け回って、飛んだり、跳ねたり、寝転がったり、県道に飛び出し、川もあるし、「安全のためしばらく毎日見守るか」と始めました。禁止はせず、車が来なかったら飛び出しもやらせていました。凍った坂道をみんなで滑って、こけてもキャッキョと笑って大騒ぎです。近所の方もみんな「子どもの声がするのはいい」と笑顔で見守ってくれています。外で元気に遊んでいると自然にたくましくなると思います。 ・適切である。 ・評価しにくい経営目標である。児童の意識の向上（自発と啓発が必要）が求められる。 ・体力の向上に限らず、生活習慣の確立と健康の維持、管理、病気の予防、治療等、保護者・家族との連携、児童への啓発が大切である。 ・運動朝会は体力づくりができ、また、他学年との交流にもなりとても良いと思います。授業や宿題でタブレットを使用している以上、メディアの使用時間を短く設定することは難しいと思います。
		・「弁当の日」の取組を工夫し継続する。 ・メディアとの付き合い方についての指導や啓発活動を充実させる。	・生活リズムチェックで、メディアの使用時間自己目標を達成できた児童の割合を 75%以上にする。	66/75×100=88 B	メディアの使用時間自己目標達成率 66%	・規則正しい生活習慣の確立や上手なメディアとの付き合い方等について、児童・保護者へ啓発する。	
開 か れ	信頼と協調に支えられた地域とともにある学	・HPや各種通信などで情報を積極的に発信し、保護者と連携を深める。 ・学校の相談機能を充実する。(迅速で丁寧な組織的対応) ・業務改善の推進、職員のタイムマネジ	①保護者の肯定的評価[3・4]を 80%以上とする。 ②職員の超過勤務月 45 時間以内を 80%にする。	①97/80×100=121 ①91/80×100=114 ②100/80×100=	①1年を通して、HP で日々の児童の様子を毎日発信できた。各種通信においては、地域・保護者と協働して神杉の子を育てるという視点で発行を行った。 ①生徒指導事案や児童・保護者からの相談に対しては、担任だけでなく、組織で共	・今後も積極的な情報発信に努める。 ・児童・保護者の思いをしっかりと受け止めることを今後も大切に、迅速で丁寧な組織的対応を行っていく。また、問題の未然防止や早期発見・早期対応のために、民生児童委員等の外部連携を密にしてい	A ・コミュニティ・スクールが始まりますが、課題をどうするかということには触れられていないかと思っています。先行している三次、河内の取組を出されますが、地域性などまったく条件は違うので私たちにはあまり参考にならないかと思っています。かつて市教委や学校は校区を廃止して地域を混乱させ、今回「あり方」として新たな

た 学 校	校づくりを 推進する。	メントカの向上を図る。		125 A	有し対応に努めた。【保護者アンケート 「学校の様子がわかる」肯定的評価 97%「教職員への相談のしやすさ」91%】 ②教育の充実に向け、衛生委員会を定期的 に実施し教職員の健康状態等について 共有し、職場環境や働き方改革につな がる業務改善について検討した。早めにス ケジュール等を示すことで、職員のタイ ムマネジメント力も向上している。【超 過勤務月 45 時間以内 100%】	く。 ・限られた時間を教師の専門性を高めたり、 授業改善や児童に接する時間を確保した りするものとしていくことが必要であ る。		学校の統廃合を出して、地域が衰退するのは必至です。 コミュニティ・スクールで統廃合の話はしたくない。 ・適切である。 ・保護者、家族、地域等が協力的であるが故に重点を置いて実践されている。無理なく継続されることを望んでいる。 ・コミュニティ・スクールが意義深いものになるよう工夫と努力をされると思う。さらなる向上・発展に期待する ・毎日ホームページが更新され、その日の学校での子どもの様子がわかりとてもいいと思います。 ・自治会の協力で子どもの学びが広がりととてもありがたく思います。 ・保護者の協力体制や学校任せの部分が子どもの教育に関わっていると思います。子どものためにできる範囲の協力はするべきだと思います。
		・地域の方と主体的な連携を深める。 ・コミュニティ・スクールに向け、小中 連携して組織的に準備を進める。	①地域人材を活用した学習活動を仕 組む。 ②コミュニティ・スクール発足に向 けた準備会を3回以上開催する。	A	①家庭科や習字等で学びの応援団の活用、 図工科、生活科等での地域人材の活用に より児童の教育活動の充実が図れた。 ②コミュニティ・スクール発足に向けた準備 会は計画的に実施できた。現在、カリ キュラムを介して学区として児童に付 けたい資質・能力を地域と共有し、学校・ 地域合体型のカリキュラムの作成に取り 組んでいる。（現在2回開催）	・地域・保護者と目標の共通認識を図り、児 童の教育活動の充実のために、今後も地 域人材の活用を計画的に図っていく。		

新

継続課題

新しい取組

レベルアップ